

令和5年 12月24日(日)

12:00 開演 (11:00 開場)

二十五世観世左近記念 観世能楽堂

前売開始: 令和5年 2月1日(水)より発売中

料金: 全席指定(税込)


S席 10,000円 A席 9,000円 B席 8,000円

C席 7,500円 学生席 2,500円 (25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催: 公益財団法人十四世六平太記念財団

協力: 一般社団法人喜多流職分会

助成:  文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業 (創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会

喜多流 自主公演

令和五年 十二月

野 浮 鬼
守 舟 界
佐 内 大
藤 田 村
寛 成 定
泰 信 定

令和5年度喜多流自主公演について

喜多能楽堂改修工事の為、令和5年度自主公演(令和5年5月~令和6年3月)の会場は **観世能楽堂** となります。

- ・指定席券販売中。
- ・令和5年度は全7回公演になります。
- ・令和5年度 喜多流自主公演年間優待券(税込)
7枚綴 56,000円 / 5枚綴 40,000円
販売中



・会場 観世能楽堂 観世能楽堂ホームページ▶▶

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL. 03-3491-8813
(午前10:00~午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

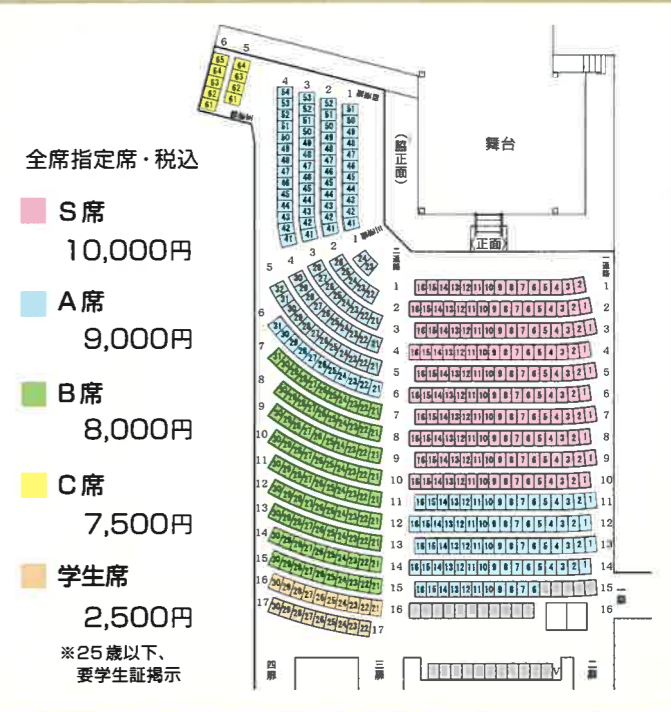
チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

- ※ お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
- ※ ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・ロビーが混雑することがありますので、できるだけ開場時間に合わせたのご来場をお願いいたします。
- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・能楽堂内に食堂はございません。GINZA SIXまたは近隣の飲食店をご利用ください。
- ・観世能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

自主公演観客席御案内



会場案内

二十五世観世左近記念 観世能楽堂

〒104-0061 東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 地下3階
会場に関するお問い合わせ TEL. 03-6274-6579 (観世能楽堂)
観世能楽堂ホームページ <https://kanze.net/>

公演に関するお問い合わせ TEL. 03-3491-8813 (喜多能楽堂事務所)
喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>



- ・銀座駅 東京メトロ銀座線・日比谷線・丸の内線 A2出口、A3出口より徒歩2分
※銀座駅とGINZA SIX地下2階をつなぐ連絡通路がございます
- ・東銀座駅 東京メトロ日比谷線・都営浅草線 A1出口より徒歩3分
- ・有楽町駅 JR山手線・京浜東北線・東京メトロ有楽町線 銀座出口より徒歩10分
- ・車でお越しのお客様 GINZA SIX内に併設の駐車場がございます。
詳しくはGINZA SIXホームページにてご確認ください。
- ・能楽堂へは、三原通り側・トラベルローソン横のエスカレーター・エレベーターをご利用いただくと便利です。中央通り側入口からは、能楽堂までの直行エレベーター・エスカレーターはございません。
- ・土曜日・日曜日・祝日の中央通りは、歩行者天国となり、平日と異なりますのでお車でご来場の際はご注意ください。

能

シテ連・康頼 塩津圭介

シテ連・成経 佐々木多門

シテ・俊寛 大村 定

鬼界島

ワキ・赦免の使 宝生常三

アイ・船頭 前田晃一

大鼓 柿原光博
小鼓 飯田清一

笛 栗林祐輔

後見 塩津哲生
松井 彬

地謡

金子龍晟 高林呻二
狩野祐一 粟谷明生
友枝真也 出雲康雅
高林昌司 大島輝久

鬼界島（きかいがしま）
高倉天皇の中宮の安産祈願のため、非常の大赦が行われた。それを受けて赦免の使いが鬼界島にも赴くことになった。鬼界島には鹿ヶ谷にて平家討滅を謀って流罪となった、俊寛、成経、康頼らが暮らしていた。ある日、島に勧請した熊野三社に参詣した掃り道に、成経と康頼は水桶を持った俊寛と行き合う。三人は桶に入った水を酒に見立てて、戯れに酌み交わしながら昔の栄華を懐かしむ。そこに赦免状を携えた使いが島にやって来る。成経が赦免状を受け取り読み上げるが、成経と康頼の名ばかりで俊寛の名は無い。驚き憤る俊寛は赦免状を限なく見るも、何度見返しても自分の名は無い。やがて成経と康頼を乗せた舟が島を離れようとすると、俊寛は波に浸りながらも必死に縋りつく。しかし最後には突き放され、一人残された俊寛は寂しく舟を見送るのであった。
（約七十分）

狂言

福ノ神

シテ・福ノ神 三宅近成

アド・参詣人 三宅右矩
小アド・参詣人 金田弘明

福ノ神（ふくのかみ）
大海日の夜に、参詣人の二人が福の神の前恒例の参詣をした。福は内と豆を持って囃し立てると、大きな笑い声をあげて福の神が現れる。福の神は二人の参詣をたいへん喜び、御神酒を所望し、早起き、慈悲、夫婦和合、隣人愛の徳を説き、語り舞い、朗らかに笑って退場する。
（約二十分）

休憩（二十分）

能

後シテ・浮舟の霊 内田成信
前シテ・里女

浮舟

ワキ僧 福王和幸

大鼓 柿原弘和
小鼓 曾和正博

笛 槻宅 聡

浮舟（うきふね）
大和の初瀬から都に向かう僧が、宇治の里で舟に乗った女に出会う。女は僧の求めに応じ浮舟のことを物語る。「その昔、浮舟は光源氏の子である薫中将に囲われてこの地に住んでいたが、やがて朱雀院の子の匂宮とも契りを結んでしまう。両者への想いの板挟みになったことを悩み、自らの死を願った末に、行方不明になってしまった」と語る。語り終えた女は、自分はお野の里に住む者であるから、都へのついでに訪ねるよう言い残し姿を消す。（中入）
小野の里を訪れ説経をする僧の前に浮舟の霊が現れる。浮舟の霊は、恋の板挟みになって宇治川に身を投げようとしたが、横川の僧都に助けられたという顛末を語り、重ねての回向を受けて成仏ができることを喜び、夜明とともに消え失せた。
（約八十分）

アイ・宇治の者 三宅右矩

後見 香川靖嗣
谷 大作

地謡

金子龍晟 粟谷充雄
谷 友矩 狩野了一
佐藤 陽 長島 茂
狩野祐一 友枝 雄人

休憩（十分）

能

後シテ・鬼神 佐藤寛泰
前シテ・野守

野守

ワキ・山伏 館田善博

大鼓 亀井洋佑
小鼓 鶴澤洋太郎

太鼓 小寺真佐人
笛 小野寺竜一

野守（のもり）
出羽国の羽黒山の山伏が奈良の春日野に来ると、由緒ありげな池がある。一人の野守の老人がやって来たので、この池について尋ねると、老人は野守の鏡と呼ばれる池だと言う。野守が鏡の代わりにするからそう呼ばれているが、実は本当の野守の鏡というものがあ、その鏡は昔、昼は人の姿であるが夜は鬼となつてこの野を守っていた、鬼神の持ち物だという。続いて山伏は「はしたかの野守の鏡得てしがな、思ひ思はずそながら見む」という新古今集の歌について、老人に尋ねる。するとその「野守の鏡」というのもこの池のことであり、昔、雄略天皇が春日野で狩をなさったとき、鷹が飛び立ったまま戻って来なかったため、野守に尋ねたところ、野守は「おん鷹はこの水の底に待ると言つたが、果たして水面に、木の枝にとまる鷹が映されていた。そこでこの池を野守の鏡と呼ぶようになったと語る。山伏が本当の野守の鏡が見たいと言つたと、老人は恐ろしい物なので水鏡を見るだけにするようにと言つて塚の中に姿を消す。（中入）
夜になり一心に祈る山伏の前に、塚の中から鏡を持った鬼神が現れ、天上界から地獄の底まで映し出す不思議なその鏡を山伏に与え、大地を踏み破つて地中へと姿を消す。
（約七十五分）

アイ・春日の里人 高澤祐介

後見 友枝昭世
内田安信

地謡

高林昌司 粟谷浩之
塩津圭介 長島 茂
佐藤 陽 中村邦生
谷 友矩 金子敬一郎

附祝言

終了予定時刻 十六時三十五分頃

令和六年 一月 自主公演番組予告

令和六年 一月二十八日（日）正午始

● 会場 **観世能楽堂**

● 指定席券販売中

老 松 香川 靖嗣
鶴 中村 邦生
鶴 高林 呻二